

令和7年度病害虫発生予察注意報第3号

令和7年7月29日
鳥取県病害虫防除所

注意報の概要

県内全域のほ場において、軟腐病の発生が増加している。今後の気象条件によっては、急激に発病が増加する恐れがあるため、防除の徹底が必要である。

病害虫名：ネギ軟腐病

- | | | |
|---|-------|-----|
| 1 | 対象作物 | ネギ |
| 2 | 発生地域 | 県全域 |
| 3 | 発生時期 | 平年並 |
| 4 | 発 生 量 | 多 い |

5 注意報発令の根拠

- (1) 本年の現地白ネギほ場における軟腐病の発生時期は平年並である。
- (2) 県西部（現地調査ほ場）における7月23日現在の平均発病株率は7.3%（平年0.5%）で平年と比較して高い（表1）。
- (3) 7月25日現在、県東部（現地調査ほ場）における本病の平均発病株率は17.6%、中部における平均発病株率は2.4%であった（表1）。
- (4) 向こう1か月の気象予報（7月24日付け）では、本病にやや好適な条件であり、引き続き発病の増加が見込まれる。



図1 軟腐病が発生した株（倒伏している）

6 防除上注意すべき事項

- (1) 本病は、高温時に土壌湿度が高いと発病しやすく、長雨や台風などによる集中豪雨などで畑が耐水や浸水すると多発する。
- (2) 発病後の防除効果は低いいため、予防的な防除を徹底する。発病が予想される場合は、土寄せ前に地際部を中心に適用薬剤を散布する。
- (3) 登録薬剤は、表2に示すとおり。
- (4) 同一成分を含む薬剤は連用しない。また、成分ごとの総使用回数および使用時期（収穫前日数）に注意して薬剤を選定する（表3）

表 1 県白ネギほ場における軟腐病の発生状況（7月23、25日調査）

地 点	調査ほ場数	発生ほ場数	発生ほ場率(%)	発病株率(%)
境港市	5	3	60.0	5.0
米子市	5	4	80.0	9.6
県西部全体	10	7	70.0(10.0)	7.3(0.5)
県東部	5	5	100	17.6
県中部	5	2	40.0	2.4

※調査対象は、県西部調査圃場が春ネギ及び夏ネギ、県東中部調査圃場が夏ネギ及び秋冬ネギ。

※()内の数値はH27年～R6年の7月下旬における平年値。

表 2 ネギ軟腐病の主な防除薬剤（令和7年7月24日現在の農薬登録内容）

薬剤名	希釈倍率	使用時期	本剤の使用回数	成分(FRACコード)	
スターナ水和剤	2000	収穫7日前	3回	オキシリニック酸(F:31)	
ナレート水和剤	1000	収穫14日前	3回	オキシリニック酸(F:31)	有機銅(F:M01)
カセット水和剤	1000	収穫14日前	2回	オキシリニック酸(F:31)	カスガマイシン(F:24)
カスミンボルドー	1000	収穫14日前	2回	銅(F:M01)	カスガマイシン(F:24)
カッパーシン水和剤	1000	収穫14日前	2回	銅(F:M01)	カスガマイシン(F:24)
バリダシン液剤5	500	収穫前日	2回	バリダマイシン(F:U18)	
コサイド 3000	2000	－	－	銅(F:M01)	
コサイド DF	1000	－	－	銅(F:M01)	
Z ボルドー	500～1000	－	－	銅(F:M01)	
クプロシールド	1000～1500	発病前～発病初期	－	銅(F:M01)	
ジーファイン水和剤	1000	収穫前日	－	銅(F:M01)	炭酸水素ナトリウム(F:NC)

表 3 成分ごとの総使用回数（令和 7 年 7 月 2 4 日現在の農薬登録内容）

成分名	総使用回数
オキシリニック酸	3回以内
カスガマイシン	2回以内
バリダマイシン	3回以内(但し、は種時の灌注は1回以内、散布及び株元散布は合計2回以内)
有機銅	5回以内
銅	－
炭酸水素ナトリウム	－

（お問い合わせ）

鳥取県病虫害防除所

（鳥取県園芸試験場内、電話：0 8 5 8－3 7－4 2 1 1）

この情報は、鳥取県病虫害防除所ホームページでも公開しています。

アドレスは、<https://www.pref.tottori.lg.jp/boujosyo/> です。



病虫害防除所ホームページ 2 次元コード